

1 市役所ってどんなところ？

市役所は、市民が楽しく健康に暮らすことができるように、さまざまな仕事をしているところです。美濃加茂市が、これからどんなまちになったら良いかを考えながら、河川や道路や施設などの管理をしたり、税金を集め、使い方を決めています。また、まちのすばらしさを伝えたり、困っている人の相談を受けたりしています。このように、市役所は、市の職員が働いているだけでなく、毎日市民やいろいろな人がやってくるところです。

【市役所のしごと】

- 1. 市民サービス
 - ・市民の窓口・市民相談
- 2. 市政を動かし、発展させる
 - ・市政運営、議会
 - ・防災拠点
- 3. みんなで市をつくっていく
 - ・市民とつながる
 - ・まちとつながる



現在の市役所本館は、昭和36年（1961年）に建てられ、今も大切に使われています。この56年間には洪水や地震がありました。改修工事を行い、工夫しながら使い続けてきました。しかし、使い続けるには多くの費用がかかる上、社会はとても早いスピードで変化しています。市民の安全や安心を守り、さまざまな環境の変化に向き合っていかななくてはなりません。そこで、美濃加茂市は、平成28年度から新しい市役所について考える取り組みを本格的に始めました。

【解決すべき5つの課題】

- 課題1 古くて使いにくく、大きな地震に耐えられない
- 課題2 せまくて、利用者も職員も困っている
- 課題3 災害がおきた時に頼れる場所になれない
- 課題4 親しみやすさがない
- 課題5 まちづくりを考えた建物になっていない



2 新しい市役所とまちづくり

市役所はさまざまな人が訪れ、多くの人が働き、まるでちいさなまちのようです。人が集まれば、出会いがあり、情報が集まり、にぎわいがうまれます。「新しい市役所をつくることは未来のまちをつくること」と考え、市民のみなさんと一緒に市役所を「未来のまちの姿を描いたり、実際にまちづくりを行ったりすることができる場所」にしていきます。

新しい市役所をいかしたまちづくりの理念「現代版 太田宿」

旧いものと新しいものが混ざり合う「**土壌・風土**」と美濃加茂の人々の「**迎え入れる心**」を大切に、美濃加茂ならではのまちをつくっていくこと

（※地理的な太田地区を意味するものではない）

美濃加茂ならではのまちづくり

【理想とする未来の美濃加茂市】

2050年になってもみんなが幸せを感じることができる市役所のあるまち

新庁舎の役割1
すべての市民の暮らしを守る

新庁舎の役割2
みんなの活動をサポートする

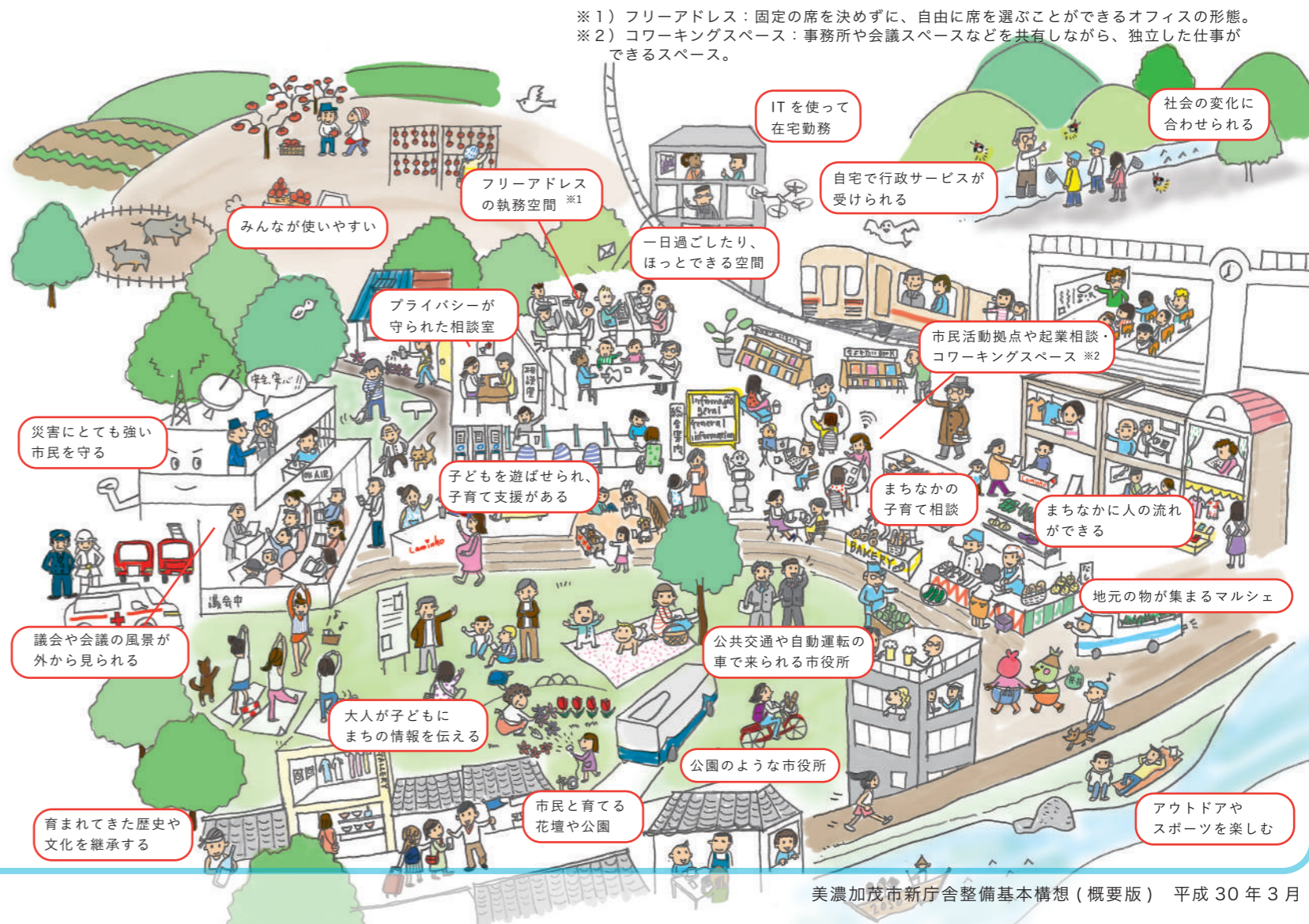
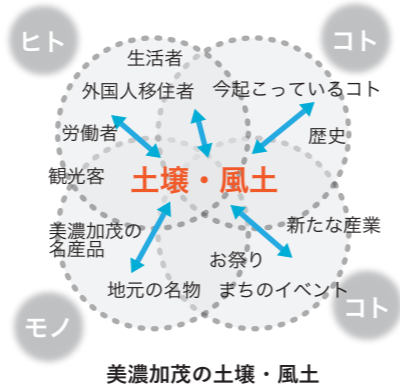
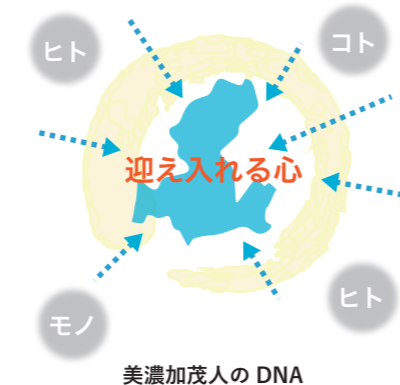
新庁舎の役割3
美濃加茂市の魅力そのものを向上させる

新しい市役所の位置づけ

従来の市役所という概念のない、市民のよりどころとなる場所
まちまるごと市役所
「ふりかえればそこにあるあなたに寄り添う」

【新しい市役所をいかしたまちづくりのポイント】

- ポイント1 生活と商業を結びつけ、人の流れができるにぎわいをつくりまします。
- ポイント2 地域の活動やコミュニティを活かし、国籍などに関わらず、人と人とのつながりを築きます。
- ポイント3 美濃加茂の歴史や伝統を守り、次の世代へ引き継ぎます。
- ポイント4 今ある地域の資源を活かします。



※1) フリーアドレス：固定の席を決めずに、自由に席を選ぶことができるオフィスの形態。
 ※2) コワーキングスペース：事務所や会議スペースなどを共有しながら、独立した仕事ができるスペース。

3 新しい市役所のかたち

新しい市役所のかたちを考えるには、3つの視点で考えることが重要だと分かりました。その上で、新しい市役所づくりの基本理念を定めました。

視点1 今の良くない部分を改善する

人が集まれる広いスペースをもつ
しっかりとした防災拠点が必要。



気軽に立ち寄れて、つながりが
うまれる場にしていきたいです。



視点2 これからの世の中に対応する

今の市役所と違っていろんな活動ができる
市役所になると良いと思います。



子どもと遊ぶ場と保育スペースを取り
入れてほしい。いつでも子どもを預け
ることができるとうれしいです。



多世代があつま交流広場がある
市役所になるといいな。

視点3 地域と連携したまちづくり



市民協働の拠点は、民間と
市と一緒に運営できると良
いですね。



すべての市民がまちと関わり
を持てる場にしたいです。



民間が運営する地元農産物の販売所
などがあると良いですね。

【新しい市役所づくりの基本理念】

みんなのまあるいまちづくりひろば

- ・市民が主人公となって日常を豊かに過ごすことができるまちづくりを行う拠点
- ・美濃加茂市を訪れる人々が魅力を感じるまちづくりを行う拠点

【基本理念を実現するための5つの基本方針】

まちが元気に なる庁舎

- ・にぎわいをうむ
- ・人が行き交い、商いが育まれる
- ・美濃加茂暮らしを楽しむ

安全で安心な庁舎

- ・災害に耐え、市民の暮らしを守る
- ・地域防災拠点として機能する

すべての人に やさしい庁舎

- ・利用しやすい
- ・働きやすい
- ・バリアフリー
- ・ユニバーサルデザイン

市民が集う 開かれた庁舎

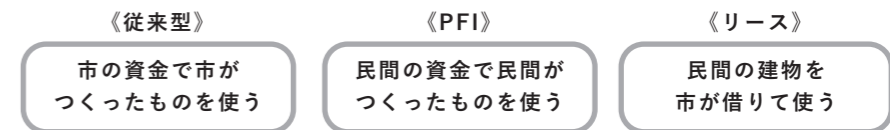
- ・市民協働ができる
- ・市民が気軽に関わり活動できる
- ・ふらっと寄れる憩いのある空間

持続可能な庁舎

- ・環境負荷の低減
- ・自然環境を活かす
- ・社会ニーズや高度な技術への柔軟な対応ができる

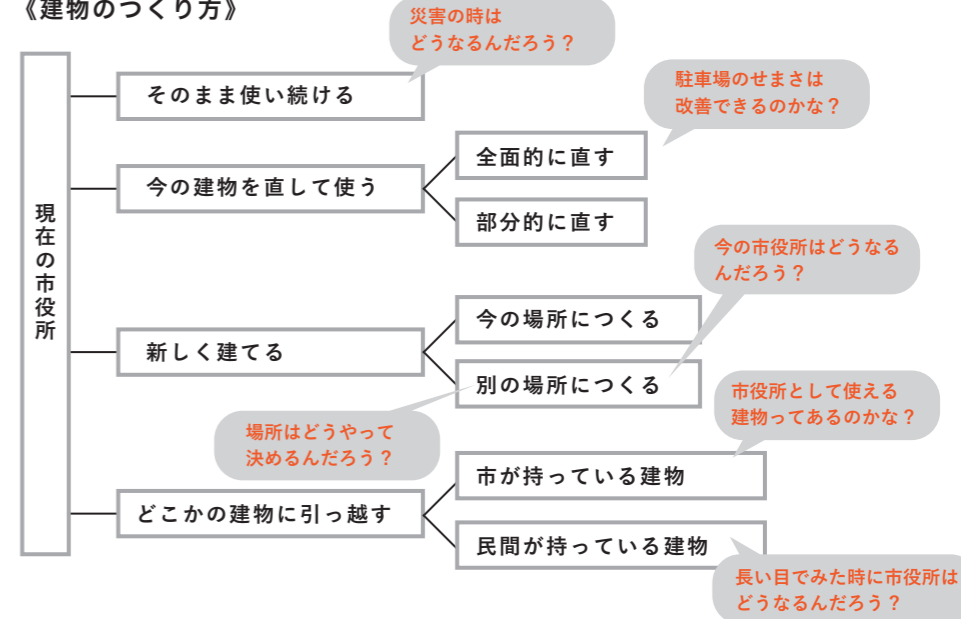
安く良いのはどの方法？

今までは、市が税金などを財源として建物を整備し、光熱水費を払い、メンテナンスをして建物を維持してきました。しかし、最近では、市の財政が厳しいことから、民間の資金や経営能力などを活用して、より安くより良い市役所を整備する方法が取られ始めています。美濃加茂市でも、これらを検討して、一番良い方法を選びたいと考えています。



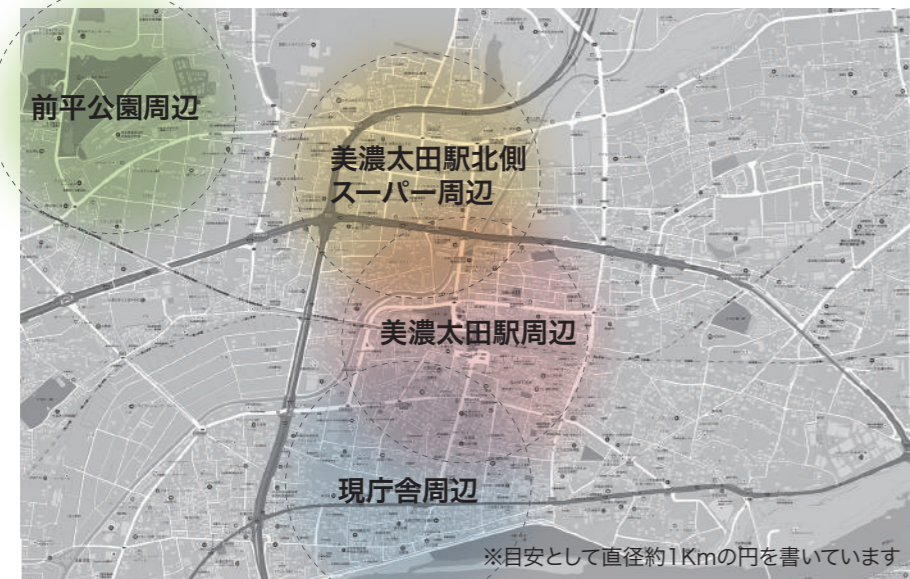
建物としての市役所

《建物のつくり方》



新しい市役所はどこにあると良いだろう？

新しい市役所の場所については、「新しい市役所をまちづくりにいかすには、どこにあると良いか」を考え、具体的な4つの候補地（エリア）を選びました。今後、市役所の候補地に求める条件に合う場所を検討して、新しい市役所の場所を決定していきます。なお、その際は1ヶ所だけでなく、2ヶ所以上に分散して整備することも検討します。



※目安として直径約1Kmの円を書いています

【新しい市役所の候補地に求める6つのポイント】

- ポイント1 誰もが利用しやすく立ち寄りやすい場所であること
- ポイント2 駐車場を含め、庁舎として十分な広さが確保できること
- ポイント3 生活の利便性が高いエリアにあること
- ポイント4 土地の取得を含めて費用が抑えられていること
- ポイント5 自然環境や景観などが整っていること
- ポイント6 治安がよく、防災面においても安全で安心であること

候補1 現庁舎周辺

まちづくりの可能性

- ・駅や商店街に近い立地を活かした、交流とにぎわいのあるまちづくり
- ・太田宿に近い立地を活かした、歴史・文化・観光のまちづくり



候補2 美濃太田駅周辺

まちづくりの可能性

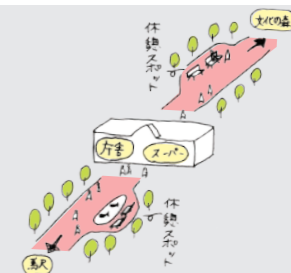
- ・駅を拠点として、市の魅力スポットと連携するまちづくり
- ・国籍や年齢を超えて、多様な人たちが集まり交流し、活動できるまちづくり
- ・駅の北側と南側をつなぐまちづくり



候補3 美濃太田駅北側スーパー周辺

まちづくりの可能性

- ・商業施設を中心とした、人が集まるにぎわいのあるまちづくり
- ・文化の森や駅とつながり、南北を軸とした歩きたくなるまちづくり



候補4 前平公園周辺

まちづくりの可能性

- ・公園や自然を活かした子育てのまちづくり
- ・スポーツ施設を中心とした、健康と福祉のまちづくり

